

# 世界遺産富岡製糸場を核とした新たなレガシー形成事業 プラン案（概要）

## 令和6年3月 国土交通省 関東運輸局



### 周辺地域の調査

- ・歴史的建築物等を当面重点的に活用していくエリア（重点エリア）を設定。
- ・重点エリアを、①正門前エリア、②飲食店エリア、③商店エリア、④生活調和エリアに分け、それぞれの活用イメージを検討した。
- ・重点エリアの空き家調査を行なった結果、重点地区及びその隣接地において約180件の空き家が確認できた。また、保存活用の候補となる空き家・空き店舗を調査し、建築年代、建物構造、老朽度等の目視による把握、建物写真の撮影、地図上へマッピングを行った
- ・なお、現役で開業している飲食店は約60軒、スナックは約20軒であった。



- ・来年度以降は、世界遺産のバッファゾーン全体について、住民参加による景観まちづくりに取り組む。
- ・ゾーン内には、世界遺産センター「セカイド」、富岡市役所、旧藤塚製糸場等の関連施設や既存の飲食店・店舗等が位置しており、富岡製糸場のほか上州富岡駅や駐車場を起点とした、これら施設への周辺部の創出についても検討する。

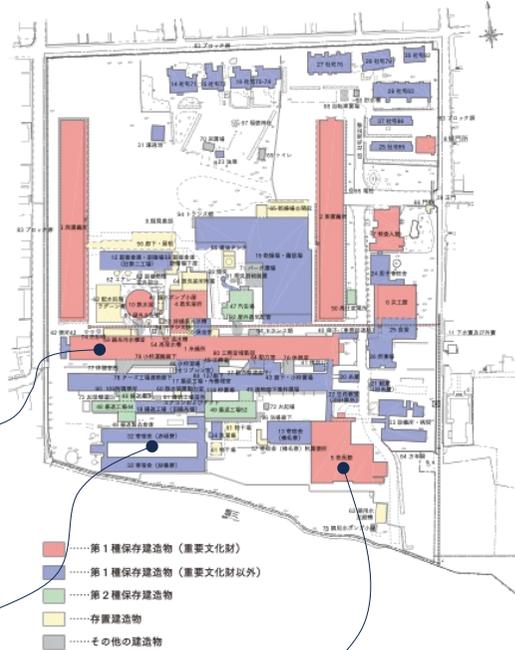
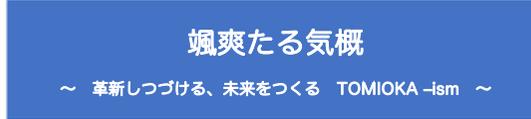


### 計画立案の方針

- ◎計画立案及び実際の事業化に際して遵守及び前提とする事項
  - ・富岡製糸場の所有者である富岡市の意向を尊重すること。
  - ・国史跡及び国宝・重要文化財としての価値を損ねないこと。
  - ・世界遺産としてのOUV（顕著な普遍的価値）を損ねないこと。
  - ・「旧富岡製糸場保存管理計画」（2008年）及び「旧富岡製糸場整備活用計画」（2012年）、並びに「富岡製糸場インタプリテーション・ガイドライン」（2021年）に基づくこと。
  - ・個別の事業計画は、富岡市が設置する有識者委員会「保存活用委員会」に諮り、文化庁修繕部門の指導を受け、協議のうえ決定されること。

- ◎計画立案の実施方針
  - ・富岡製糸場の文化財としての歴史的・文化的な価値を保存しながら、これを未来に継承するために活用する。従来型の文化を消費する「観光」ではなく、地域と来訪者がともに文化を育む「文化観光」の実現を目指す。
  - ・国宝、重要文化財を含む100棟程度（主な施設は36棟）の建築物全てについて、外観及び内観目視による現況調査を実施し、保存活用工事に要する費用の概算額を算定する。
  - ・線糸所において線糸機を動態展示して生糸生産を再現するとともに、国宝3棟を世界遺産ミュージアムとして整備することを計画する。その他の建築物については、滞在施設、レストラン、カフェ、教室、事務所等として活用することを計画する。
  - ・第1期事業として想定されている首長館、寄宿舎について事業性を検証する。
  - ・周辺地域の面的な再生生活活用に向け、空き家活用について調査を実施する。
  - ・これらの構想を実現する事業体を設計するとともに、国、群馬県、富岡市との官民連携の事業体制の構築（役割分担、費用負担等）について検討する。

### レガシー（事業コンセプト）の設定

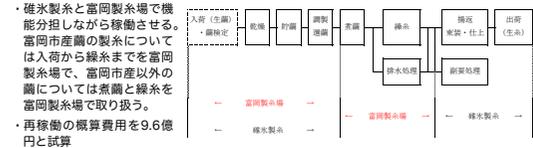


活用プラン					
区分	施設名	活用品1 (最終用途)	工事費 (億円)	活用品2 (新しい機能)	構成
国宝	東置繭所	総合案内 ギャラリー ショップ	28.1	+事務所	世界遺産 ミュージアム
	西置繭所	展示室、收藏庫	1.4	+カフェ、ラボ	
	線糸所	線糸機動態展示	25.4	同左	
重要文化財	候門所	事務所	1.2	ホテルフロント	世界遺産 ホテル
	首長館	講堂	9.9	フレンチレストラン	
	検査人館	事務所	3.4	カフェ、ホテル客室	
	女工館	滞在施設	4.4	ホテル客室	
	社宅	滞在施設	4.4	ホテル客室	
その他の 史跡建築物	寄宿舎	滞在施設	9.3	滞在施設	多様な滞在
	食堂	食堂	1.5	食堂	
	診療所	診療所	1.1	診療所	
総計（上記以外を含む）			112.8		

### 生糸生産を構想する [参考資料] 碓氷製糸株式会社の提案内容

#### ◎整備計画案

- ・副蚕場に残る乾繭機、煮繭機、小型線糸機を先行して復元、碓氷製糸の技術指導の下で技術者を育成しながら製糸を行う。その後、現存する線糸所内の線糸機の一部を復元する。詳細は日本製糸技術継承専門家チーム（仮称）を設置して検討する。



#### ◎乾繭機・煮繭機

- ・製糸機械メーカーの有限会社ハラダによると、副蚕場に残されているハラダ式乾繭機及びH S B型煮繭装置（1978年5月設置）は改修が可能。また、線糸所への煮繭の供給については、荷車などによる手作業が現実的。

### 想定される第1期事業の事業性 ①寄宿舎（浅間寮、妙義寮）

- ・教育旅行等の学生、観光客、研究者、絹産業研修生、アーティスト、ワーケーション利用者、移住希望者等の滞在施設（1泊～数ヶ月程度の滞在）。
- ・鏡川に近い妙義寮の1階部分：共用キッチン＋コワーキングスペース＋工房スペース
- ・妙義寮2階及び浅間寮の1・2階：24室（1室定員6名）の滞在施設
- ・洗面、トイレ、洗濯場は共用。寮の近くに浴場の復元または新設が必要。
- ・官側で保存修理工事費用を負担し、民側で負担する活用工事費用に補助金等を導入できれば、宿泊営業を実施する民間事業者の参入を期待することができる。

寄宿舎の工事費の試算結果（単位：百万円）

活用品	保存修理工事費	活用工事費	合計
滞在施設	559	372	932

寄宿舎の売上見込み額の試算結果

活用品	施設規模	単価	稼働	年間売上額
滞在施設	24室	20,000円/日	60%	103,000,000円

寄宿舎の事業スキーム例

活用品	運営事業者	官負担額	民負担額	収益
滞在施設	民間事業者 (公費で選定)	559百万円	372百万円	10.3百万円

※ ①の事業性検討では、施設の整備、運営は官民連携を想定し、整備費用については、文化財としての歴史の保全（スケルトン）を「官」、活用のための内装、設備等を「民」が費用負担することを前提とした。運営費用は民間に「民」が費用負担する。

### 想定される第1期事業の事業性 ①首長館

- 活用品1) 講堂（学生、来場者、住民向けのセミナー、各種企画展やイベント等に使用）
- 活用品2) フレンチレストランBRUNAT（仮称）
- ※官側で復元工事を含む保存修理工事費用を負担すれば、活用工事を実施してレストラン営業につなげる民間事業者の参入を期待することができる。

首長館の工事費の試算結果（単位：百万円）

活用品	保存修理工事費	活用工事費	合計
1) 講堂	843	149	992
2) レストラン	1,012	278	1,290

首長館の売上見込み額の試算結果

活用品	施設規模	単価	稼働	年間売上額
1) 講堂	1室	50,000円/日	年間50日	2,500,000円
2) レストラン	96席 (着席率50%)	ランチ 4,000円 ディナー8,000円	ランチ 1.0回転 ディナー0.6回転	152,000,000円

首長館の事業スキーム例（単位：百万円）

活用品	運営事業者	官負担額	民負担額	年間収益
1) 講堂	富岡市運営or 指定管理者等	全体工事費 992	民間負担なし 0	賃借料収入 2.5
2) レストラン	民間事業者 (公費で選定)	保存修理工事費 1,012	活用工事費 278	賃料収入 22.8

### 実施体制を設計する

- ・マネジメント組織は、世界遺産富岡製糸場を保存活用して未来に継承するという公的なミッションと、民間事業者との連携による自律的な運営というミッションを併せて組織となる。
- ・このため、今後の議論のための案案として、指定管理者制度とDBO（Design-Build-Operate）方式を組み合わせたハイブリッドな実施体制を考案した。
- ・マネジメント組織は、事業リスクを負って、施設の保存活用工事を実施し、適切な事業者をマッチングし、製糸場全体のマネジメントを行う中間事業者である。
- ・この組織が、バッファゾーンにおいて分散型開発事業を展開することも想定する。



施設全体のマネジメントスキーム